

# 金沢市

## 千木遺跡 せんぎいせき

千木遺跡は<sup>かなざわし</sup>金沢市北部の<sup>ちゅうせきち</sup>沖積地に位置する、<sup>ならじだい</sup>奈良時代から<sup>むろまちじだい</sup>室町時代にかけての<sup>いせき</sup>遺跡です。遺跡の中には河川が流れており、<sup>なら</sup>奈良・<sup>へいあんじだい</sup>平安時代は<sup>かせん</sup>河川の左岸に、<sup>かまくら</sup>鎌倉・<sup>むろまちじだい</sup>室町時代は右岸に<sup>しゅうらく</sup>集落が<sup>いとな</sup>営まれ、<sup>ほったてばしら</sup>複数の掘立柱<sup>たてもものあと</sup>建物跡が見つかっています。

展示品は鎌倉・室町時代の集落跡から出土した全長9.7cmの<sup>どうぞうじぞう</sup>銅造地蔵<sup>ぼさつりゅうぞう</sup>菩薩立像で、<sup>ろうがた</sup>蠟型によって造られた<sup>せいどうせい</sup>青銅製の<sup>ちゅうぞうぶつ</sup>铸造仏です。仏像の<sup>えもん</sup>衣文などの細部表現は铸造後にタガネで刻まれています。また、右手の穴や、<sup>れんげざはいめん</sup>蓮華座背面の切り込みなどから、本来は右手に<sup>しゃくじょう</sup>錫杖を持ち、<sup>こうはい</sup>背に光背を携えていたと考えられています。

蓮華座の下端にホゾがあることから、小型の<sup>ずし</sup>厨子に納められ、<sup>ば</sup>挿まれていたと考えられます。



遺跡の位置図



<sup>とぎん</sup>正面の衣文には鍍金(金メッキ)の跡が残っています。